

ニュース JAFIC EYE No.143

4月のマイワシとさば類の漁況について

1.太平洋側のマイワシについて

○石巻港:4月の水揚量は、3月に比べやや増加したものの、前年並であった(前年比97%)(表1)。体長組成は15cm前後主体で、20cm以上は少なかった(図1)。石巻港では20cm以上のマイワシは見られず、この時点で三陸海域まで北上している魚群は少なかった。

表1 石巻港における1～4月のマイワシの水揚量(トン)

マイワシ水揚量	2019年	2020年	前年比
1月	1,561	2,373	1.5
2月	3,796	4,591	1.2
3月	1,098	2,833	2.6
4月	3,273	3,175	1.0
合計	9,729	12,971	1.3

(以降水揚量出典:おさかなひろば)

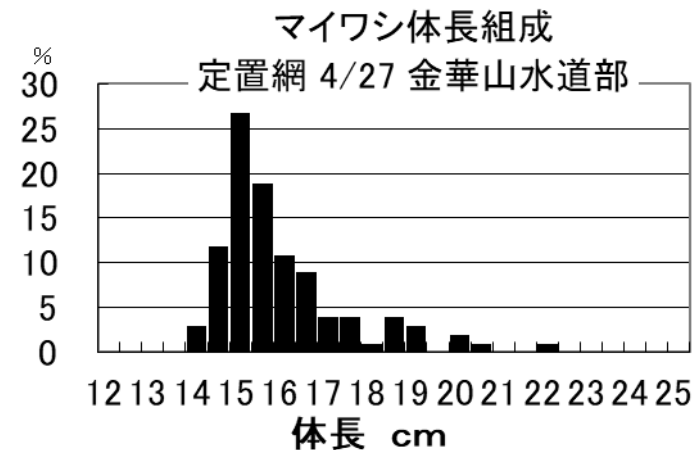


図1 4月27日石巻水揚のマイワシの体長組成

○銚子港:4月の水揚量は前年をやや下回った(前年比87%)(表2)(図2)。漁場は3月から引き続き、鹿島沖から銚子沖に形成された。体長は15cm前後主体で、20cm以上にもモードが見られ(図3)、体重は35g前後と90g前後にモードが見られた(図4)。これらのことから、産卵を終えた群が銚子周辺まで北上したことが考えられる。

表2 銚子港における1～4月のマイワシ水揚量(トン)

マイワシ水揚量	2019年	2020年	前年比
1月	10,492	18,067	1.7
2月	20,092	27,250	1.4
3月	33,884	24,067	0.7
4月	37,869	32,922	0.9
合計	102,337	102,306	1.0

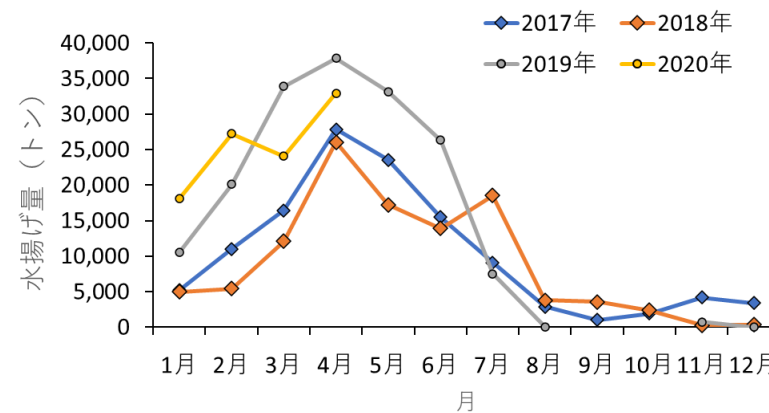


図2 2017～2020年の銚子港におけるマイワシ水揚量推移

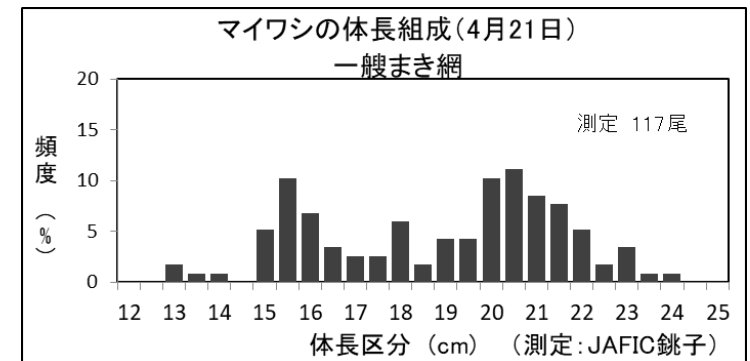


図3 4月21日銚子水揚のマイワシ体長組成

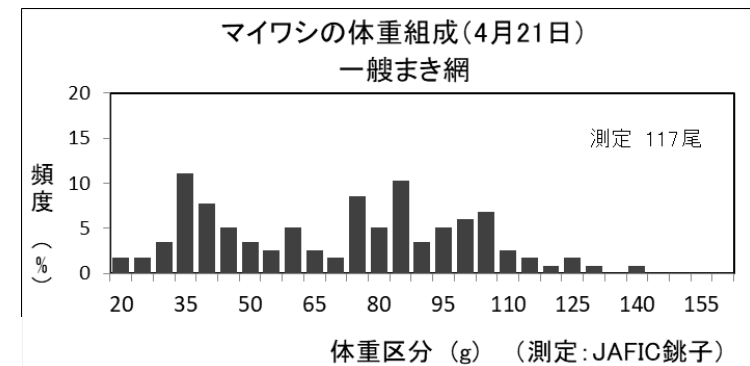


図4 4月21日銚子水揚のマイワシ体重組成

2.日本海側のマイワシについて

○境港:4月の水揚量は前年を大きく上回った(前年比10.2倍)ものの、好調であった3月から大きく減少した(表3)。4月はマアジやブリの漁獲が増加し、マイワシの水揚量は減少したことから、マイワシ狙いの操業が減ったことが考えられる。

表3 境港における1～4月のさば類の水揚量(トン)

マイワシ水揚量	2019年	2020年	前年比
1月	58	105	1.8
2月	193	2,824	14.6
3月	0	18,603	—
4月	391	3,996	10.2
合計	642	25,527	39.8

3.太平洋側のさば類について

○大船渡港:1、2月 は前年並かそれを下回る水揚量であったが、4月 は大きく上回った(表4)。いわて大漁ナビによると4月21日に2トン、27日は10トン以上の水場で、4月下旬から水揚量が増え始めた。

表 4 大船渡港における1～4月のさば類の水揚量(トン)

さば類水揚量	2019年	2020年	前年比
1月	460	334	0.7
2月	318	288	0.9
3月	－	1	－
4月	0	72	718.0
合計	778	695	0.9

○石巻港:2、3月 は前年を上回る水揚量であったが、4月 は前年を下回った(前年比69%) (表5)3月と4月では尾叉長組成のモードが変化しており、30cm以上の産卵を終えた群の一部が北上していると考えられる(図5)。

表 5 石巻港におけるさば類の水揚量

さば類水揚量	2019年	2020年	前年比
1月	5,183	1,987	0.4
2月	4,153	5,039	1.2
3月	1,475	3,385	2.3
4月	796	547	0.7
合計	11,607	10,958	0.9

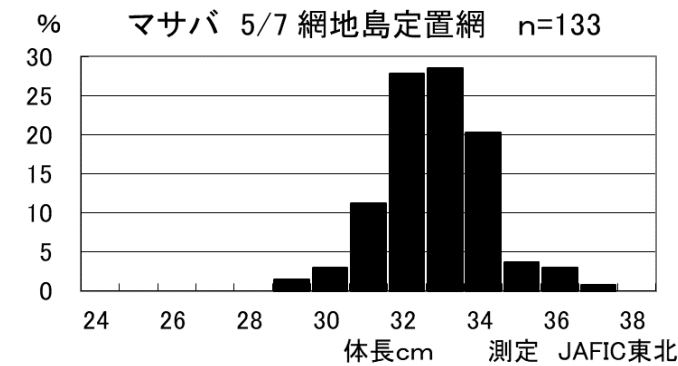


図 5 5月7日石巻水揚のマサバ体長組成
○銚子港:4月には銚子沖でのさば類の操業はほとんどなく、銚子水揚のさば類のほとんどが中部海域で漁獲されたものであり、水揚量は前年を下回った(前年比80%) (表6)。4月上旬の中部海区操業分のさば類の尾叉長は32cm前後が主体であった(図6)。

表 6 銚子港におけるさば類の水揚量

さば類水揚量	2019年	2020年	前年比
1月	21,932	9,476	0.4
2月	8,921	20,621	2.3
3月	8,684	14,163	1.6
4月	2,884	2,305	0.8
合計	42,420	46,565	1.1

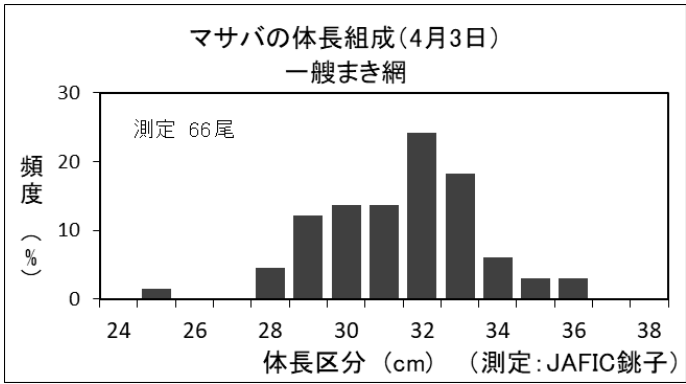


図 6 4月3日銚子水揚のマサバ体長組成

○三重県奈屋浦港:4月の水揚量は前年を下回った(前年比52%) (表7)。本年は過去3年とは漁獲のピークがずれており本年4月から水揚量の減少が見られた(図7)。また、4月下旬にかけてサイズも小型化した。水揚量が減少し、サイズが小型化していることから、大型魚は産卵を終え北上したと考えられる。

表 7 奈屋浦港におけるさば類の水揚量

さば類水揚量	2019年	2020年	前年比
1月	554	145	0.3
2月	8,056	2,381	0.3
3月	9,040	8,150	0.9
4月	10,044	5,215	0.5
合計	27,695	15,891	0.6

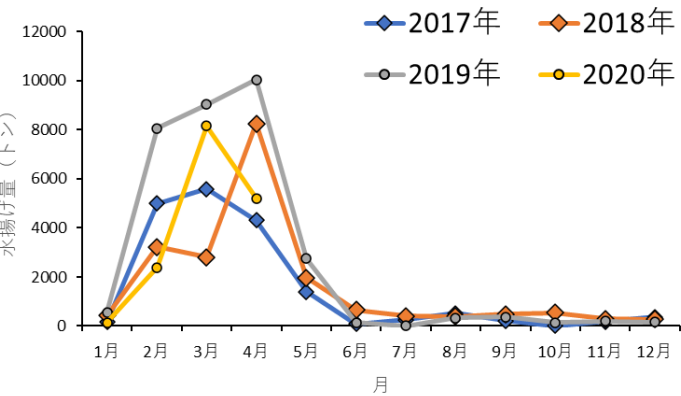


図 7 2017～2020年の奈屋浦港におけるさば類水揚量の推移

○宮崎県北浦港:4月の水揚量は前年を下回った(前年比62%) (表8)。奈屋浦同様、漁獲のピークがずれており、今年は4月に顕著な水揚量の減少が見られた(図8)。産卵を終えた魚群が4月には北上を開始したと考えられる。

表 8 北浦港におけるさば類の水揚量

さば類水揚量	2019年	2020年	前年比
1月	724	121	0.2
2月	1,040	62	0.1
3月	6,300	7,816	1.2
4月	6,001	3,703	0.6
合計	14,066	11,702	0.8

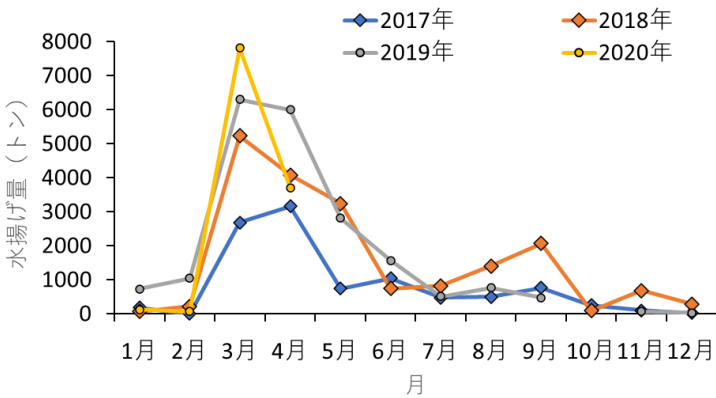


図 8 2017～2020 年の北浦港における
さば類の水揚量の推移

4.日本海および東シナ海側のマサバについて

松浦港:4 月の水揚量は 3 月に引き続き低調で、前年をやや下回った(前年比 92%) (表 9) (図 9)。4 月上旬は西沖主体の操業であったが、中旬から下旬は東シナ海中南部での操業が主体であった。尾叉長は西沖では 30cm 前後、35cm 前後主体であったが、東シナ海中南部では大型魚は見られなかった (図 10)。

表 9 松浦港におけるさば類の水揚量

さば類水揚量	2019年	2020年	前年比
1月	8,826	1,099	0.1
2月	4,764	1,725	0.4
3月	2,593	921	0.4
4月	1,451	1,336	0.9
合計	17,634	5,081	0.3

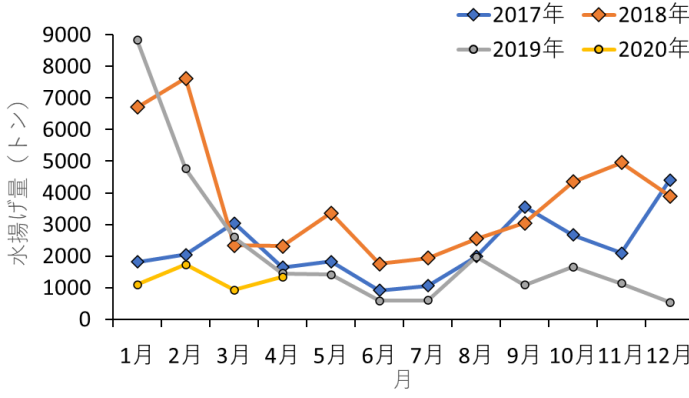


図 9 2017～2020 年の松浦港における
さば類の水揚量の推移

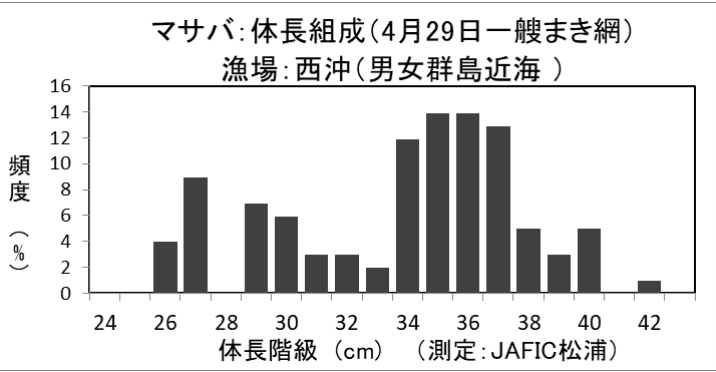


図 10 4 月 29 日松浦水揚のマサバ体長組成

5.まとめ

太平洋側のマイワシは、石巻港および銚子港の水揚状況や銚子沖のまき網漁場の位置から判断すると、4 月に入り産卵を終えた群が銚子沖まで北上したものの、三陸海域まで北上した魚群は少なかったと考えられる。一方で、銚子沿岸の水温が 9～10℃であるため、沖合の 10～12℃の北上暖水を通して北上する群もいたと考えられる。また、5 月から道東沖でさけます代替棒受網によるマイワシ漁が始まっており、徐々に北上する傾向が見られている。

太平洋側のマサバは 4 月中旬から下旬にかけて東北海域の定置網や底引き網で漁獲が好調になり、北上の傾向が見られた。また、奈屋浦や北浦での水揚のピークが一ヶ月早かったことから昨年よりも北上が早まっているものと考えられる。一方で、いまだに北浦沖で産卵群が漁獲されていることから、今後さらに東北海域で産卵後の北上群の漁獲が続く可能性がある。

日本海側は隠岐海峡でのマイワシに加え、浜田沖や九州西沖、東シナ海中南部でマアジやマサバの漁獲があった。マイワシは前年より来遊量が多い状況が続いており、隠岐海峡ではマアジも漁獲されるようになったので、今後が期待される。一方、東シナ海のマサバは 3 月に続き低調な漁模様で推移した。

また、銚子港では新型コロナウイルスにより、外食産業向けのハマチや輸出向けのイワシサバ等の値段が下がるといった影響が見られた。他港に関しても魚価や流通に対する影響について注視していきたい。

(水産情報部)